

令和7年度 学校関係者評価

令和7年度の学校関係者評価委員会は以下の通り実施した。

1. 開催趣旨

奈良保育学院附属幼稚園の教育活動、その他の運営について、幼稚園運営計画を基に各委員の評価を頂き、自園の教育の質向上を図ることを目的とする。

2. 学校関係者評価委員

教育関係有識者 奈良教育大学 ESD・SDGs センター特任教授 中澤 静男
幼稚園関係者 大宮地区社会福祉協議会 会長 今西 康乃
保護者 4 歳児クラス「ほし組」 江上 純子

3. 開催日時

第1回学校関係者評価委員会

令和7年6月19日（木） 10:00～12:00

第2回学校関係者評価委員会

令和7年11月21日（金） 10:00～12:00

第3回学校関係者評価委員会

令和8年2月20日（金） 10:00～12:00

4. 学校関係者評価について

第3回学校関係者評価委員会にて、今年度の自己評価を報告し、各項目について以下の評価をいただいた。

（1）園児獲得について

- ・ 少子化のなか、以前園児獲得に向けては厳しい状況は変わらないが、3歳児新入園児数は、令和6年度の15人を底にして令和7年度17人、来年度（令和8年度）26人（見込）となっている。現在取り組んでいる教育内容が評価されているのではないかと。
- ・ 昨年度から行っている満3歳児保育の実施や子育て広場「しらふじ ここすきひろば」も園児獲得に効果があると考えられる。

（2）令和7年度 重点事項について

① 重点項目1 幼稚園型認定こども園化に向けて準備を行う

- ・ 認定こども園に移行してくとは、社会ニーズからの流れである。
- ・ 幼稚園から認定こども園に移行していくことは、しっかりと広報する必要がある。

② 重点項目2 保護者ニーズへの対応と積極的な広報活動を行い、園児の獲得を目指す

- ・ 幼稚園から認定こども園に移行していくことは、しっかりと広報する必要がある(前掲)。
- ・ 未就園児をもつ保護者は子どもの居場所を求めている。特に地域には安心して遊べる「砂場」がない。「ここすきひろば」で幼稚園と連携して園庭で遊ぶなどしてもらえるとありがたい。そこから、幼稚園の良さを伝えていくこともできるのではないかな。

③ 重点項目3 選ばれる園となるための特色を打ち出す

- ・ 「探究」を進めているが、先生の熱心さが伝わってるのではないかな。続けていってほしい。
- ・ 「探究」は「やりなさい」という教育ではない。「問い」を立てる、「問い」を見つけることが大切で「問い」を立てることができれば進んでいく。高校では「探究学習」は当たり前前の教育になっている。今後、それが中学校・小学校へと降りてくる。幼稚園の教育の中でやっていくことは価値がある。
- ・ 幼児期に自然や生き物と出会い、触れ合うことは大切である。園外活動で自然や生き物と出会う機会があることは良いことである。

④ 重点項目4 経費削減と効率的な園経営を行う

- ・ 園バスの送迎利用の廃止は利用者数減から考えると妥当である。
- ・ バスを園外活動にシフトするのは適切であり、評価できる。

(3) 保護者アンケートの結果について

- ・ 「楽しく通っている」と回答した保護者が昨年度の73%から12ポイント上昇して85%となった。「ややそう思う」も加えると98%が「楽しく通っている」と回答している。その理由を分析することで、より良い園づくりのための要素を明らかにすることができるのではないかな。
- ・ アンケート結果からは「粘り強さ」に課題があることが見えてきた。この部分に注力していく必要がある。
- ・ 園選びの決め手を「園の教育」よりも「先生の雰囲気」に重点を置いている保護者が多い。教育内容は二の次と思っているのかなと感じた。
- ・ 「体育教室」や「スイミング教室」は高い評価となっている。幼児期の体づくりの正課教室は保護者ニーズもあり、満足度が高い。
- ・ 行事や特色のある活動の中で「お誕生日会」の評価が低かった。やり方も含め再考していく必要がある。